



東彼杵のひと

vol.2

山田 公子さん

みかん農家
昭和47年川棚町生まれ
山田地区



みかんの専業農家

— 今が収穫の最盛期だそうですね。

三根郷山田地区の斜面一帯と平地、ハウスで収穫時期の異なる約10種類のみかんを栽培しています。収穫は9月末の極早生(ごくわせ)を皮切りに早生、温州(うんしゅう)、不知火(しらぬい)、せとか、高糖度系の順に来年2月頃まで続きます。主に大村市の選果施設から関東以北の地域に出荷されますが、近年はふるさと納税の返礼品としてもご利用いただいています。地元の方はもちろん、全国の皆さんから届く「東彼杵のみかんはおいしい」とのお声は、私たちの何よりの励みです。

1本1本、木に感謝

— 収穫の後はどのような作業がありますか？

収穫・出荷作業と並行して、収穫が終わった木から順に肥料を与えます。一般的に「お礼肥(れいごえ)」と呼ばれていて、たくさん実をつけて頑張ってくれた木に「おつかれさま、ありがとう」の気持ちでたっぷり肥料をあげるんです。来年の実のつき方にも関わる大切な作業。消耗した木の回復を促して寒い季節に耐えるための体力をつけ、来春の新芽や開花に備えます。

前職は保育園の先生

— 農業はいつ頃から始めたのですか？

専業になったのは13年前です。短大卒業からずっと保育士でした。みかん農家に嫁いでからもしばらくは保育士を続け、休日だけ農作業を手伝っていました。最後の10年間は町内の保育園でお世話になったんですよ。

だから初めは農業の右も左もわからない状態。基本を覚えるだけでも数年かかりました。それまで義父、義母、夫が中心のみかん作りでしたが、2年前に義父が他界。義母も高齢となり現在は主に夫と私で、お手伝いの方の力を借りながら栽培を行なっています。



短大を卒業したばかりの山田さん。大好きなバンドのTシャツと。



収穫作業は体力勝負。腰を痛めないようにカートを使ってみかんを運びます。

地域の皆さんに支えられて

—お手伝いの方は何人いらっしゃいますか？

収穫時期は10人ほど。皆さん町内の方で、何十年も来てくださっているベテランさんもいて心強い限りです。春から夏にかけてはイノシシ対策の柵の整備や、みかんの木とみかんを守る防風林の剪定（せんてい）、みかんを間引く摘果作業、土を覆うマルチシート張りなど力仕事も多く、3～4人のお手伝いの方と共にシルバー人材センターの方にもご協力いただいています。なかには茶農家さんも。茶摘みの時期は私がお手伝いに伺ったりと、町内の生産者同士でも支え合っています。

楽しい「いけどき」

—休憩時間の皆さんの笑顔が印象的でした。

斜面地での大変な作業の合間、10時と15時のいけどき（休憩時間）はなくてはならない大切な時間になっています。どんなに疲れていても、そのぎ茶とお茶請け片手にワイワイおしゃべりすれば、また元気に作業に戻るから不思議です。明日のいけどきを楽しみに、1人1人仲間の顔を思い浮かべながらお茶請けを準備するのもまた、私にとってしあわせな時間。皆さんと一緒に育てたおいしいみかんを、今年もたくさんの方にお届けしたいと思います。

取材とぼれ話

めっちゃかわ！



手芸店に出掛けてかわいい布を探したり、ちくちく手仕事するのが大好き。友人に頼まれて子どもの学校用の持ち物を作ることも。



—趣味はハンドメイド